

令和 7 年度
第 1 回人吉市まちづくり推進会議
会議録

日 時：令和 7 年 6 月 27 日(金) 10:00-12:00

場 所：市庁舎 3 階庁議室

出席者：[委員]

人吉市長	松岡 隼人
人吉市社会福祉協議会 会長	柴田 祐
熊本県立大学 教授	吉田 力
東校区支部 支部長	中村 良郎
西校区支部 支部長	竹地 史運
人吉市消防団 副団長	岩下 博明(欠席)
人吉商工会議所 会頭	鳥越 英夫
人吉温泉観光協会 会長	井上 道代
人吉市文化財保護委員会 委員長	福川 義文
青井阿蘇神社 宮司	永田 政司
人吉市 PTA 連絡協議会 会長	真木 英男
(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長	飯島 直己
国土交通省 八代河川国道事務所 所長	田口 雄一
熊本県 球磨地域振興局 局長	甲斐 奈美恵
熊本県 球磨川流域復興局 政策監	

[事務局]

人吉市 復興支援課

井上 敬明 次長、尾方 政康 係長、山田 千夏 主任

[デザイン会議 座長]

熊本大学 教授

星野 裕司

[デザイン会議 プロジェクトマネージャー (PM)]

人吉市 副市長

溝口 尚也

ハートビートプラン

泉 英明

[デザイン会議 随行]

国土交通省 九州地方整備局
熊本県 球磨川流域復興局

一ノ瀬 誠 課長
平木 佑弥 参事

球磨地域振興局
総務振興課
土木部まちづくり工務課

立山 亮 課長
中島 猛 課長
田副 勝裕 部長
新津 瞬、田中 颯太

人吉市 復興政策部
ハートビートプラン

出席者：【資料 1-1 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議設置要項】

【資料 1-2 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議委員名簿】

【資料 1-3 令和 7 年度事業推進体制】

【資料 2 令和 7 年度の会議・全体の進め方】

【資料 3 今年度の取組予定】

【資料 4 今年度実施予定の社会実験】

【資料 5 担い手との関わり方について】

記録：田中

【決定・承認事項】

1. 今年度の推進体制について報告
2. 今年度の会議・全体の進め方について報告
3. 今年度の取組予定について承認
4. 今年度実施予定の社会実験
5. 担い手との関わり方について承認

【会議録】

(1) 開会・市長挨拶

(松岡市長)

- ・本日はお忙しい中、第一回まちづくり推進会議にお越しいただき感謝する。また、日頃より本市が取り組む復興まちづくりにご協力いただき感謝したい。
- ・今年 3 月にまちなかグランドデザイン推進アクションプランを策定した。今年度はアクションプランの実現に向け、公民連携の体制のもと社会実験や公民連携事業、ハードのデザイン監修を実施している。
- ・今年度は社会実験を通して市民の方に事業を共有し、参加してもらうことが重要である。また、地域の価値を高め、持続可能な事業を組成していくためには、いかにして民間の投資を呼び込むかが課題である。つくる側の行政だけでなく、使う側の民間の存在も重要と考えている。
- ・5 月 12 日から中川原公園の一般開放を開始し、既に遠足、スポーツ、イベント等、様々な方法で使われている。日常的にはスターテント、イス・テーブルを設置している。社会実験に対しては、アンケートを通して様々なご意見をいただいている。
- ・本日は今後の取組について様々な説明・議論を行う。是非みなさまからの忌憚のないご意見をいただきたい。

【報告事項】

(2) 今年度の推進会議の体制

○まちづくり推進会議及びデザイン会議設置要項について

【資料 1-1 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議設置要項】

(溝口PM)

- ・今年度から「復興まちづくり推進会議/デザイン会議」という名称から「まちづくり推進会議/デザイン会議」という名称に変更し、復興だけでなく幅広いまちづくりに取り組む。

○まちづくり推進会議及びデザイン会議設置要項について

【資料 1-2 人吉市まちづくり推進会議及びデザイン会議委員名簿】

(溝口PM)

- ・推進会議の委員として新たな委員となった方を紹介する。(以下に記載)
 - ・人吉市消防団 副団長 竹地 史運
 - ・(一社)ひとよし球磨青年会議所 理事長 真木 英男
 - ・熊本県 球磨川流域復興局 政策監 甲斐 奈美恵
- ・デザイン会議も同様に何名かに新たな委員として参加いただく。紙面を確認いただきたい。

○事業推進体制について

【資料 1-3 令和 7 年度事業推進体制】

(溝口PM)

- ・推進体制については三層構造になっている。各タスクフォースで打ち出した方針や活用アイディアについて、デザイン会議という全体場で議論・精査をし、その内容について推進会議に諮り意思決定を行うという体制とする。
- ・今年度はアクションプランに記載の各エリアで社会実験を実施する。社会実験は全体統括チームが全体支援調整、検討支援、担い手の発掘を行う。

- ・各エリアの社会実験について、各タスクフォースリーダーを配置している。
- ・民間の担い手の方々には、市民・団体・事業者等幅広く参画いただく。
- ・情報発信チームが社会実験の情報発信を行う。

(3) 今年度の会議・全体の進め方

【資料2 令和7年度の会議・全体の進め方】

(溝口PM)

- ・公募型のプロポーザルを実施し委託事業者を決定した。その結果、まちなか創生推進業務を有限会社ハートビートプラン、ハード整備のデザイン監修については、景観形成・夜間景観・交通・情報発信・建築を専門とする企業の共同企業体が選定された。5月に契約を締結し、本業務を遂行している。
- ・今年度の会議は、推進会議を年に3回、デザイン会議を月に1回実施する。
- ・第1回デザイン会議ではプロポーザルの提案内容の説明、今年度の会議日程、民間担い手とのやり取り状況、各TFの進捗状況の共有を行った。第2回デザイン会議は本日の午後から開催する。
- ・タスクフォースの協議は月に1~2回の実施を想定している。デザイン会議に参画する専門家にも参加していただいている。
- ・市民・地域関係者との意見交換については、2026年3月にまちなかフォーラムの実施を予定しているが、その前に野点会、ヒトヨシクマラボという意見交換会を実施する。
- ・社会実験期間を8月1日~11月9日としている。8月からリバーアクティビティ期間として社会実験をスタートする。10月1日~11月9日をコア期間として、集中的に様々な社会実験を実施する。社会実験に関する広報は情報発信チームを中心に行う。
- ・民間の担い手の発掘のためのヒアリングを実施している。
- ・6月23日(月)に第1回社会実験実行委員会を開催し、40名ほどの民間事業者に参加いただいた。8月に第2回社会実験実行委員会を実施する。社会実験実行委員会は年に5回程度を予定している。

■質疑応答

(井上次長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。
- (委員から質問無し)

【審議事項】

(4) 今年度の取組予定

【資料3 今年度の取組予定】

○今年度の取組内容の全体像について

(泉PM)

- ・推進会議・デザイン会議・タスクフォースの会議に加え、個別に担い手とのやり取りも行っている。
- ・タスクフォースはエリアもしくはテーマ毎に組成している。
- ・エリア毎に地域の文化・歴史を活かしたハード整備について詳細の内容を議論している。各タスクフォースには専門家が参加し、デザイン監修を行っている。
- ・社会実験の目的とは、ハード事業だけでなく、豊かな人々の営みをつくっていくためのソフト事業をどのように組成していくかという事を検討・検証することである。社会実験の担い手として約40人程度の民間事業者と、様々な事業・イベントを企画しているところである。
- ・社会実験はハード事業の進捗に合わせて必要なタイミングで実施する。
- ・民間の担い手とのやり取りと並行して、行政や関係機関との協議も進めている。

- ・情報発信では社会実験の内容だけでなく、社会実験の準備等、実施に向けたプロセスも含めて発信を行う。

○エリア毎の取組内容について

(泉PM)

- ・青井・中川原公園・鶯温泉・駅前エリアは公民連携事業を組成する予定である。エリア毎にコンセプトや必要な機能、官民の役割分担の方法等を検討している。
- ・青井阿蘇神社については、神社関係者や奉賛会と連携しながら、エリア全体の事業を検討する。今年度のハード事業としては、参道に面する公園の造成、道路や電柱の仕様、河川護岸、西部公園の設計、用地買収等を予定している。社会実験については、参道の演出・球磨川下りの新ルートの試行・歩行者天国化の実施・中央公園の活用等を予定している。
- ・中川原公園については、5月12日から公園の一般開放をスタートしている。現在車両の進入を禁止しているが、7月22日から車両を15台限定で進入を許可する。また、10月頃に移動式のトイレトレーラーを設置する。また、11月から上流部で国の護岸工事が始まる。年度末までに電気も通す予定である。それと並行して、公民連携事業の方法についても検証したいと思っている。

→ハード事業としては、11月の国の護岸工事に合わせ、デザイン会議がデザイン監修を行う。

→社会実験の内容としては、滞留空間の設置・軽飲食提供やライフジャケットなどを貸し出すリバーベースの設置、照明の設置・活用プログラムの実施、増水時対応の検討、駐車場ルールの検討を予定している。

- ・球磨川の右岸・左岸では管理用通路を活用したテラスを設置する。
- ・胸川には水遊びエリアを設置する。
- ・大橋は歩行者天国化し、イベント利用・日常利用を想定した活用を行う。
- ・うぐいす温泉は既存の建物を解体する。また、その跡地の将来的な活用に向け、公民連携の手法や事業スキームを検討する。それと並行し、都市再生整備計画の変更を行う。
- ・山田川では区画整理事業に関する工事が進んでいる。道路や公園の具体的なプランについてデザイン監修を行う。
- ・中心市街地・鍛冶屋町通りでは、道路舗装の改修とCHOBITを改装した妖漫画館を設置する。
- ・人吉駅前・SLについては、SLの動態展示が今年度から始まる。既にプロポーザルが実施されているが、まずはSLに関する資料等の展示館や格納庫等の設置を含めた、全体のゾーニングに関する利用可能性調査を行う。また、実施要綱には青井エリアや大穴横穴群周辺との連携も考えるよう記載されている。デザイン会議メンバーもデザイン監修を実施し、選定された事業者とともに駅周辺の再整備方法を検討する。
- ・城見庭園・HASSNENBAでは地域の方とカヌー部との交流促進のため、カヌー部と地域の方との共同で清掃活動を行う。また、城見庭園から張り出すデッキを常設設置する事を見据え、今年度に仮設のデッキを設置する。
- ・城跡については、歴史館が7月にオープンすることもあり、歴史館周辺と胸川周辺の動線を改善する。歴史館の西側の一部を歩行者天国化するとともに、球磨川に降りる仮設階段を設置する。また、石垣のライトアップも実施する。櫓の活用については今後検討する。
- ・球磨川アクティビティについては、今後も担い手を発掘する。現在はラフティング協会によるゾーブやBIGSUP、テントサウナ等のアクティビティを実施する予定である。
- ・景観形成については、まちなか全体の道路・公園・河川のデザイン監修を実施する。また、景観ガイドラインの見直しを行う。青井エリア等ガイドラインが必要な場所やその内容について検討したいと考えている。サインに関する現状調査・設置方針も検討する。
- ・夜間景観は全てのエリアで検討する。特に国道445号線の道路照明が不十分であるため、改善したいと考えている。
- ・交通については、交通量調査を実施する。大橋を歩行者天国化した際の周辺への影響について、従前従

後で比較検討を行いたいと考えている。人吉橋・大橋・水の手橋の北側・南側の計 6 か所で調査を実施する想定である。また、駐車場に関する調査も実施する。来街者が使用できる駐車場を把握した上で、日常時・週末の駐車場利用について調査を行う。また、モビリティハブを設置したいと考えている。具体的には人吉 IC へのシェアサイクルポートの設置、じゅぐりっと号のルート変更等を検討したいと考えている。

- ・情報発信については、まちづくりデザイン会議の note や SNS で情報を発信しているが、今後はアンバサダー制度のようなものを設け、人吉球磨の魅力を発信している市民の方をアンバサダーとして位置づけ、広報の協力をお願いできればと思っている。
- ・ランドバンクについては、空地の利用方法や活用に関する仕組みを構築したい。

■質疑応答

(松岡市長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。

(吉田氏)

- ・市街地には水害の傷跡が残っている所も多い。九日町・鍛冶屋町・大工町には荒地が多く、景観が悪い。地権者と話をした上で、整地を行い、環境を改善し、歩きながら安らげるような景観づくりに取り組んでほしい。当時大工町は人吉のメインストリートであったが今はほとんど人が歩いていない。地権者と話をしながら通りを改善し、空地を活用して事業を行いたいと思えるようにする必要がある。

(井上次長)

- ・そのような意見は多くいただいている。現在は市の環境課とともに所有者に対して草刈りを依頼している。市が所有する土地については、憩いの空間として活用を検討したい。また、ランドバンクの仕組みづくりや空地活用の社会実験も実施を検討している。

(福川氏)

- ・各エリアそれぞれが良くなるようなイメージはできるが、全エリアを包括するテーマが必要だと思う。
- ・鍛冶屋町通りの妖漫画館というネーミングは、当初妖怪漫画館という名称案もあったと思うが、妖漫画館の方が良いと思った。

(井上次長)

- ・エリア全体のテーマやロゴは必要だと考えている。今後官民で検討し、皆様にも発表できればと思う。

(福川氏)

- ・テーマは司馬遼太郎の「日本で最も豊かな隠れ里」というフレーズが有名である。また「相良 700 年と保守と進取の歴史」というフレーズが個人的にはしっくりくる。参考にしてもらえれば良いと思う。

(泉氏)

- ・アクションプランの中でエリア全体のまちづくりの考え方を打ち出しており、官民で共有している。また、エリア毎に伝統を活かしながらハード・ソフト事業を行うことが重要であるが、民間の事業や考え方とも上手くバランスを取っていく必要があると思う。そのような事も含めて今後検討していきたい。

(5) 今年度実施予定の社会実験

【資料 4 今年度実施予定の社会実験】

○社会実験の全体像について

(泉PM)

- ・行政がプランニングし、ハード整備を行うという従来の「つくる目線」の進め方ではなく、「つかう目線」で、事業の仮説を立て、社会実験を通して検証してから、プランニングし、ハード整備を実施する進め方とする。そのため最終的につくりあげた空間をつかう・運営する人がいる状態にするため、最終的な担い手となる事業者と初期から関わっている。
- ・上記の進め方を行うために、今後も持続可能な事業とは何かということを今年度から検証したい。具体的には社会実験を通して、まちの人に見てもらいコンセンサスを取ること、事業性が担保でき、民間で自走できる事(公民連携の事業もある)を検証する。
- ・ただ、まずは将来の事業の担い手だけでなく、その社会実験に参加する人や発信をする人も増やしたい。そういった人たちが何か事業を起こしたいと感じ、社会実験の担い手側になるという好循環が生まれると良いと思っている。
- ・社会実験には行政運営事業と民間自主事業、協力事業の3つがある。行政運営事業は将来のハード整備を見据えた公共的な設えや事業を指す。民間自主事業は個々の事業を指しているため、基本的には自主財源での実施を想定しているが、社会実験を通して稼ぐことも可能である。また、必要に応じて行政・専門家から補助金を紹介する。協力事業は既にあるイベント・行事・祭事と連動した事業を指す。
- ・民間自主事業については将来的に企画を事業化することがベストではあるが、まずはマルシェなど単発的なイベントも含めて提案してもらい、事業としての可能性を検証できれば良いと考えている。
- ・10/1-11/9 をコア期間と設定し、集中的に社会実験を実施する。ただ、中川原公園を開放し、滞留空間を設置することや、リバーアクティビティ等は8月から実施する予定である。
- ・社会実験コア期間に向け、8月末までに民間自主事業の内容を決定し、9月に広報を行う想定である。
- ・その準備として、実行委員会を実施する。第1回、第2回は社会実験の企画の検討、第3回は社会実験直前の決起集会、4回目は社会実験の打上げ、5回目は来年度に向けた社会実験の反省会を予定している。
- ・社会実験全体統括チームとしてハートビートプラン、ドットリバー、カモメ・ラボ今村氏、市のリーダーチーム、専門家チームが社会実験全体をバックアップする。また、情報発信チームとして tarakusa 柿原氏や稲橋氏に情報発信を担当してもらう。

〇エリア毎の社会実験の内容について

(泉PM)

■青井阿蘇神社周辺＋球磨川

・行政運営事業

- ・参道軸を通す社会実験を実施する。それに合わせて夜間照明も設置する。
- ・船着場を設置する。
- ・中央公園を造成し、何らかの活用を行う。
- ・参道から川に降りることができる仮設デッキを設置する。

・民間自主事業

- ・球磨川下りが、新設する青井エリアの船着場に降りてから神社に参拝をするといった球磨川下りの新ルートを構築する。10月後半以降に実施する予定である。時間帯は朝と夕方の時間帯を想定している。
- ・奉賛会と連携しながら、参道を活用した神事や新たなお参りの方法を検証・検討する。

■中川原公園＋大橋・胸川

・行政運営事業

- ・中川原公園に滞留施設を設置する。
- ・大橋を歩行者天国する。
- ・胸川に水遊びエリアを設置する。
- ・仮設電源を引き、最低限の照明を設置する。また、対岸の人吉城の石垣のライトアップを行ったり、フォトスポットとしてくまんの光るオブジェを設置する。

- ・増水時対応を検討する。水位観測地点人吉で水位が 1.5m となったら公園の利用を禁止する。水位が 1 m 手前になればスターテントを撤去するといったようなタイムラインを現在検討している。現在は行政を中心に公園の管理を行っているが、社会実験を通して、将来的な民間事業者の作業量やコストを検証したい。
- ・7 月 22 日からは公園利用者だけ車両の進入を許可したい。以前までは公園利用者以外の駐車が多かったため、それを改善するための仕組みやシステムを構築したい。駐車台数は日常時は 15 台、イベント時はイベント運営者の裁量とする。

・民間自主事業

- ・北氏、竹本氏らがテントサウナ、BBQ 等を実施する。
- ・ラフティング協会が BIGSUP、ゾーブ、テントサウナを実施する。
- ・球磨川テラスとして、あゆの里は管理用通路にデッキを設置し、宿泊者にウェルカム鮎の提供をする。鍋屋はホテルのバーを活用し、管理用通路にカウンターを設置することで昼飲みができる場所を設える。りんどうは胸川の川上の管理用通路をテラス利用するというのを想定している。
- ・宮山氏は今年 3 月に実施した夜市を 10 月後半に実施する想定である。
- ・おくんち祭りでは中川原公園に御旅所を設置する予定である。
- ・徳川氏を中心によさこい祭りを 11 月 8~9 日に実施する。8 日は前夜祭として中川原を活用し、9 日は大橋の上で本番を行う。赤い絨毯を敷いてファッションショーも実施したいと考えている。
- ・鳥飼氏がマルシェを実施する。歴史の広場の音楽イベントと合わせて中川原公園で実施する予定である。先行的に 9 月に農家が出店する朝市を実施する想定である。
- ・船戸氏は球磨焼酎を楽しめるオクトーバーフェストを実施する予定である。

■人吉城跡

・行政運営事業

- ・城跡から川沿いに降りることができる階段を設置する。川沿いは県の方に草刈りを実施していただいた。将来的には胸川に飛び石設置し、老神神社側にアクセスできるようにしたい。
- ・歴史館の西側を一部歩行者天国化する。
- ・夜間照明を設置し、石垣等を照らす。

・民間自主事業

- ・北氏が音楽フェスを実施する。全国から 2000 人程度参加する想定である。
- ・七呂建設が 1 階部分を地域に開放したモデルハウスを設置する予定である。10 月 18 日に人吉温泉祭りが実施されるため、それに合わせて移動式動物園のイベントを開催し、そこでアンケートを実施することで、モデルルームの機能・設えや使われ方のニーズを把握したいと考えている。

■城見庭園・HASSENBA

・行政運営事業

- ・城見庭園に仮設のデッキを設置する。一部川に張り出した部分をつくろうと考えている。
- ・必要最低限の夜間照明を設置する。

・民間自主事業

- ・カヌー部の高校生と地域住民の関係性づくりを行う。

■中心市街地

・行政運営事業・民間自主事業

- ・鍛冶屋町の CHOBIT を改装した妖漫画館が 11 月にオープンする。月刊ララの雑誌等を展示する。妖怪祭りの日にオープニングイベントを実施する。
- ・サードプレイスとして肥後銀行の 1 階を活用する。ひとはこ図書館として、棚を 1000 円でレンタルできるような仕組みをつくり、その場所で本を読んだり、交流したり、中高生が勉強できるような場所をつくる予定である。同じ場所で片岡氏、小井氏、田畑氏が観光案内所を設置するのと同時に、ドリ

ンクの販売を実施する。このメンバーは海外の言語を話すことができたため、将来的なインバウンド向けの観光案内の方法についても試行する想定である。

- ・ランドバンクとして、空地の暫定活用や、竹筋コンクリートの駐車場の設置、ランドバンクの仕組み構築に取り組む。

■エリア共通

・民間自主事業

- ・石垣氏がまちなかの回遊企画を検討している。
- ・坂本氏がフットパスを実施したいと考えている。他の社会実験やイベントと連携して実施できると良いと考えている。

■モニタリング

- ・市民の満足度向上と観光客の誘致や外貨を稼ぐ事を両輪で進めていく、その効果検証を毎年実施する。各指標について以下のように効果検証を行う。
 - ・川沿いの遊歩道・中川原公園の利用者数→利用者数カウント・観察調査
 - ・アクティビティの属性・多様性→プレイス調査・観察調査
 - ・既存事業・活動の充実を含む、新規ビジネスやサービスの数・質→ヒアリング・実地調査
 - ・市民の愛着醸成・関わり方の多様性カウント→市民の愛着醸成・関わり方の多様性カウント
 - ・観光客数→市のデータを活用
 - ・RevPAR→人吉温泉旅館組合の宿泊データ分析システムにて算出
 - ・ブランドとターゲットに応じたメディアへの露出→ターゲットとメディアの仮説設定とカウント
 - ・事業者や市民、観光参加型の人吉らしい発信スタイルの盛り上がり→復興まちづくりの活動・事業についての SNS 発信主体や発信内容のカウント
 - ・復興まちづくり事業で生まれた施設・場所における市民発意の取組数見→ヒアリング・実地調査

■質疑応答

(松岡市長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。

(永田)

- ・今回の社会実験の内容は大人目線の提案が多く、子ども目線の意見がない。人吉は日常的に使用できる子供の遊び場がないことが課題である。夏場は遊べても冬場に遊べる場所がない、公園はあっても球技ができないというような課題がある。今回の提案にあった図書館機能はまちなかにあると良いと感じた。その場所にカフェがあるとより良いと思う。
- ・また、人吉は普通科の高校だけでなく、農業高校や商業高校、工業高校など様々な専門分野を学ぶ高校生がいる。そのため、高校生のプレゼン大会を実施してみてもどうか。高校生が事業や社会実験の提案を行い、良い提案を採用し、そこに投資をして実際に社会実験として実施してみると面白い。それでうまくいけば民間がその内容を買上げたり、高校生が事業として継続することも起こりうる可能性がある。人吉の子供は大学から外に出てしまい、人吉で就職する人も少ない。この機会に子供たちが事業を起こしたり、人吉で働く環境をつくるきっかけづくりができないだろうか。そのような教育分野での面白い発想があると良い。

(泉)

- ・永田氏の企画として実施してみてもどうか。

(井上次長)

- ・子ども議会からもまちなかにカフェや勉強スペースが必要だという意見をいただいている。公園については、今後市内に新たに2つの公園を整備する。球技の使用等のルールづくりは検討が必要だが、社会実験を通じて検討できると良いと思っている。図書館については、既存図書館との兼ね合いや、建設するとなると、広いまとまった土地が必要である。駐車場の確保等の課題も出てくるため複合的に今後検討したいと考えている。
- ・高校生の観点で事業の提案してもらうことは面白いことだと思う。過去に熊本県立大学のアイディアを具現化した例もある。各分野を学ぶ高校生から面白いテーマが出てくるのではないだろうか。人吉は今年住みよさランキング3位を獲得した。今後も上位を確保できるよう子どもの観点を大事にしたまちづくりに取り組んでいきたい。

(星野)

- ・子どもの観点は非常に重要であると思う。また、今回の社会実験の一部企画を熊本県立大学と熊本大学の学生共同で提案したいと思っている。その提案も見えていただきつつ、社会実験に参加する上での敷居が下がり、多く人が本取組に参加しやすくなると良いと思っている。

(松岡)

- ・永田氏にもそのようなアイディアを具現化する主体として関わって貰えると嬉しい。

(井上)

- ・子供たちの成長のための土壌づくりが重要である。人吉市内の子供の数が少なく今後も減少していくことが予想される。スポーツができたり、子供たちの活躍の場が必要だと感じる。
- ・また、人吉城歴史館がまもなくオープンする。先日館内を見学したが、以前とはコンテンツが全く違っていた。以前は過去の資料の展示がメインだったが、現在は相良 700 年の歴史を楽しみながら体感できるようなコンテンツとなっている。是非子どもたちに歴史館に訪れてもらい、人吉のこれまでの歴史の積み上げを体感して学んでもらいたい。そのように、今後は相良 700 年の歴史を様々なかたちで伝えていきたいと感じている。歴史を楽しく伝えることができれば子どもに人吉への愛着が身につくと思う。子どもだけでなく、学校の先生にも歴史館に来ていただき、子どもと共に学んでいただきたい。

(井上次長)

- ・人吉城跡は文化課の岸田氏がタスクフォースリーダーを務めている。岸田氏からも、城跡周辺で楽しんだり、歴史を感じてもらえるような様々なアイディアを聞いている。今後も引き続き検討していきたい。

(鳥越)

- ・アクションプランでは経済を回すための観光客の誘客と、生活者生活満足度向上の両輪で進めていくことが明記されていると思う。その観光面での提案が充実してきたと感じる。今後はこれらの企画にどのように生活者が関わるができるかが重要かと思う。
- ・例えば、肥後銀行 1 階はクーリングシェルターにすると、観光客だけでなく生活者も訪れやすいのではないか。学校も遠足や課外活動で利用すると良いだろう。
- ・中川原公園も災害前は人吉高校の山岳部がテントを張り、合宿のようなものを実施していた。そのような利用の仕方も誘導できないだろうか。
- ・また、様々なイベントの企画が提示されているが、0 から 1 のイベントを組成し、持続させることは難しい。おくんち祭りで中川原公園に御旅所を設置するといった既存イベントの開催場所として、各柄エリアを活用するという方向で考えることも良いだろう。
- ・エリア共通の問題として、駐車場については今後検討してもらいたい。

(井上次長)

- ・情報発信の観点としては、今後はより分かりやすく伝わりやすい情報発信の方法を検討する。

- ・クーリングシェルターは議会からの要望もある。肥後銀行に限らず、熱中症対策の取組には力を入れたい。
- ・既存の企画を活かすことについては、おくんち祭りの際に中川原公園へ御旅所設置するといったことをその他の既存イベントでも検討したい。
- ・駐車場が不足しているという声は市民からも多くいただいている。また、公共駐車場の場所が分かりにくいというような意見も多い。また、イベントとの時に必ず駐車場が混雑することも課題である。交通タスクフォースを中心にまちなかの回遊性も踏まえた駐車場の考え方を検討したい。検討した内容について、根拠も明確にした上で、今後の推進会議に諮りたいと考えている。

(柴田)

- ・鳥越氏のご指摘の通り、観光の満足度だけでなく、日常の生活の満足度を充実させることは重要だと考えている。
- ・吉田氏のご指摘について、空地の雑草については、所有者の責任であるため、草刈りをお願いすることが基本だが、それだけではない仕組みを構築できないかと考えている。例えば、空地を駐車場として一時的にレンタルできるようにして、駐車場の収益を使用し、草刈りの費用に充てることができないかと思っている。空地の雑草の問題は全国的な課題である。社会実験を通して、解決策を試行し、空地問題を解消したい。その仕組み化ができれば日常の生活の満足度向上につながると思う。
- ・また、永田氏の意見からも子どもの居場所に関する指摘があったが、子どもの遊び場として空地を使うということができないかと思っている。安全面の対策は必要であるが、昔子どもは空地で遊んでいたと思う。そのような風景があることでまちに賑わいを感じることができる。空地の課題と子どもの居場所の課題を組み合わせることで解決を図ることができると良いと思う。
- ・今後も市民の生活満足度をどう高めることができるか、そしてそのモニタリングの方法について検討していきたい。

(星野)

- ・デザイン会議の座長として、本日の話を聞き、非常に勇気づけられた。
- ・福川氏の全体のテーマを設定し、まちをコーディネートする話や空地、子どもの問題については、我々も頭に入れつつ、主題化できていない部分であったため、本日の機会ですそれらについてご指摘いただけて良かった。
- ・現在アクションプランで掲げているコンセプトはまだ間口の広いコンセプトになっている。今後、皆さんと議論しながら、もう少し間口を狭め方向性を明確にしたコンセプトにしていくことができると良いと思う。一方でエリア毎の多様性も重要かと思う。その多様性とエリア共有の人吉らしきのバランスを上手くつくっていくことが重要かと思う。

(松岡市長)

- ・本日の審議事項について承認いただけるか。

→一同承認

(6) 担い手との関わり方について

【資料5 担い手との関わり方について】

(泉 PM)

- ・実行委員会とは別に3月にまちなかフォーラムに実施する。また、民間とのコミュニケーションとして野点会とヒトヨシクマラボという会を実施し、気軽にまちづくりに参加する関わりしろをつくることをできないかと考えている。
- ・野点会では地域の方の何名かをお誘いし、社会実験を体験してもらった上で、そのフィードバックを貰う場にしたいと思っている。従来のように、行政が計画を説明し、質問をもらうという会ではなく、実際に体験した上で担い手とともにざっくばらんにお話をするといい会にしたい。

- ・ヒトヨシクマラボについては、現在担い手の中に女性が少ないという課題がある。ただ、人吉球磨エリアで活動されている女性が多い。その方たちのところに出向き、人吉球磨全体でどのようなことができるか。どのような観点が必要かということをお話できればと思っている。
- ・全体として上記のような会を設けつつ、民間の事業者の方とは必要に応じて個別にやり取りを行っていきたいと考えている。

■質疑応答

(松岡市長)

- ・上記に関して、質問等はあるか。

(真木)

- ・社会実験等で単発的に企画を実行することは容易である。そこから持続的に事業化することが難しいと思う。どのように担い手とともに事業化へと繋げていくのか。現時点で具体的な方法はあれば教えていただきたい。

(泉 PM)

- ・現時点で事業として成り立つかどうかを判断できない。ただ、社会実験を行う中で参加者のニーズや事業性、収益性が分かってくる。社会実験を2-3年繰り返し実施する中で、企画をブラッシュアップしながら、徐々に事業化に向けて担い手と伴走しながら、将来的に担い手が自走できるかたちをつくりたいと思う。また、融資が必要な大きな事業については我々も事業計画を作成し、銀行に交渉に行くというようなバックアップをしたい。

(松岡市長)

- ・本日はこれで以上とする。活発な議論をいただき感謝する。

以上